

小学校音楽科 学習指導案の書き方例

〇〇〇〇学校〇年〇組〇名
指導者 〇 〇 〇 〇

1 題材名 「〇〇〇を〇〇〇しよう」

- 題材名は、学習内容と活動が子どもたちにもはっきりとイメージできる名称が望ましい。
- 指導内容（いくつかのねらいをもった活動）のまとまりを表す単位で単元・主題・題材などがあるが、音楽科は「題材」が適切である。それは、表現と鑑賞の関連を図るためと学習内容が継続的につながるためである。

2 題材の目標

- この題材を通して育てたい力や身に付けさせたい力を観点別に具体的に記述する。
- この題材の中で扱う領域が、表現領域のみの場合は（１）（２）（３）
鑑賞領域のみの場合は（１）（４）
表現・鑑賞両方扱う場合は（１）（２）（３）（４）
- 文末は、児童生徒の立場から「～する」「～感じ取る」「～について思いや意図をもつ」「取り組む」等の表現で記述する。＊「～できる」は使わない。

3 題材設定の理由

- ・なぜこの題材を設定したのか（選択した理由）について、学習指導要領の内容との関連で述べる。
- ・題材のもつ価値や内容、意図するところを明確にする。
- ・題材に対する児童生徒の受け止め方や題材に関する学習する内容の現在の実態などを分析的に記述する。
- ・この題材による活動を通して、育てたい児童生徒の姿について記述する。
- ・題材の目標で示した力を育成するために、教師の願いや思い、指導の意図や見通しを明確に記述する。
- ・指導に当たり、どのような指導や支援の手立てをとるか（指導の工夫）を具体的に述べる。（このような場面で、このような方法で…）

4 学習指導要領との関連

・学習指導要領の内容との関連について明記する。

(例：第5学年及び第6学年)

- A 表現 (1) 歌 唱
- ア 範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。
 - イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。
 - ウ 呼吸及び発音の仕方を工夫して、自然で無理のない、響きある歌い方で歌うこと。
 - エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。
- (2) 器 楽
- ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。
 - イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
 - ウ 楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。
 - エ 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
- (3) 音 楽 づ くり
- ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。
 - イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。
- B 鑑賞 (1)
- ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。
 - イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。
 - ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。
- [共通事項] (1)
- ア (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素
(イ) 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み
 - イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること

5 教 材

「○○○○○○」

6 題材の評価規準

・題材についての評価規準で、題材の目標を実現する学習活動等に応じて、学習状況を適切に評価することのできる評価規準を具体的に設定することが大切。

(参考例) 「A表現・歌唱」「A表現・音楽づくり」「B鑑賞」を関連付けた題材
(小学校第2学年)

※国立教育政策研究所 「評価方法等の工夫改善のための参考資料」より

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>①問いと答えの表現や身の回りの音に興味・関心を持ち、音楽を聴いたり、表現したりする学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【関－①歌唱，②鑑賞，③音楽づくり】</p>	<p>①身の回りの音の特徴を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音の出し方を工夫したり，問いと答えなどを生かし，音を音楽にしていくことをいろいろと試して，自分の考えをもって簡単な音楽をつくる工夫をしたりしている。</p> <p>【創－①②音楽づくり】</p>	<p>①問いと答えになるように表現したり，つくったりリズムをつけないだりして，音を音楽にしている。</p> <p>【技－①音楽づくり】</p>	<p>①二重唱の歌声の違いや問いと答えを聞き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いている。</p> <p>【鑑－①】</p>

- ・「A表現」領域（歌唱，器楽，創作）の学習状況は，「音楽への関心・意欲・態度」，「音楽表現の創意工夫」，「音楽表現の技能」の三つの観点で評価をする。
- ・「B鑑賞」領域の学習状況は，「音楽への関心・意欲・態度」，「鑑賞の能力」の二つの観点で評価する。

7 指導と評価の計画

段階	第一次	第二次	第三次
時	第・・時	第3・4時（本時）	第・・時
学習内容	ねらい 内容 教材 ○○ _____	○○ _____	_____
共通事項	音色 速度 旋律 拍の流れ フレーズ 音の重なり 反復 変化 歌詞		
評価計画	「次」の評価規準 【関-①】	【創-②】 【技-①】	【鑑-①】

8 板書計画 本時終了時の板書のイメージを書いておく。

9 本時の学習指導

(1) 本時の目標

(2) 学習活動の展開と評価

- ・授業の流れを明快でわかりやすく、指導内容と学習活動、評価の観点と場面を明確にする。

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準（評価方法）	共通事項
	1 ○○ *児童主体の表記と記述 *活動やめあての確認について記す	*他の欄に記述できない内容と指導上の留意点	*「おおむね満足できる」と判断される状況（B）を記述 *具体的評価規準1～2 *本時の目標との整合性を図る	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 指導者のねらいや児童に身に付けさせたいこと </div>				
			【演奏聴取】	
			【ワークシート】	

○評価方法

- ・授業の実践段階での評価は、1単位時間に1つか2つの評価項目とできるだけ簡

単な評価方法が負担にならず、指導も行き届く。(学習活動における具体的評価規準)

- ・ AとCのみ（BとCのみ）を記録するなどして、評価に追われるような授業はさ
けたい。
- ・ 評価の方法には、活動の中で評価する方法や質問紙や書かれた作品等により評価
する方法が考えられる。

聴取法	歌唱の聴取，演奏の聴取，録音
観察法	発言・態度・表情の観察，発表の観察，身体表現の観察，話し合いの観察，鑑賞態度の観察，録画，グループ活動の観察，活動・行動の観察
質問紙法	学習カードの利用，学習プリントの利用，鑑賞カードの利用
作品法	創作曲，報告書，レポート，ノートの提出，メモ，感想文・感想画の記入
面接法 (対話・会話)	教師と児童，児童同士
自己評価法 相互評価法	自己評価カードの利用 相互評価カードの利用

* 自己評価は教師の評価に入れない

(4) 評価及び指導 (手だて)

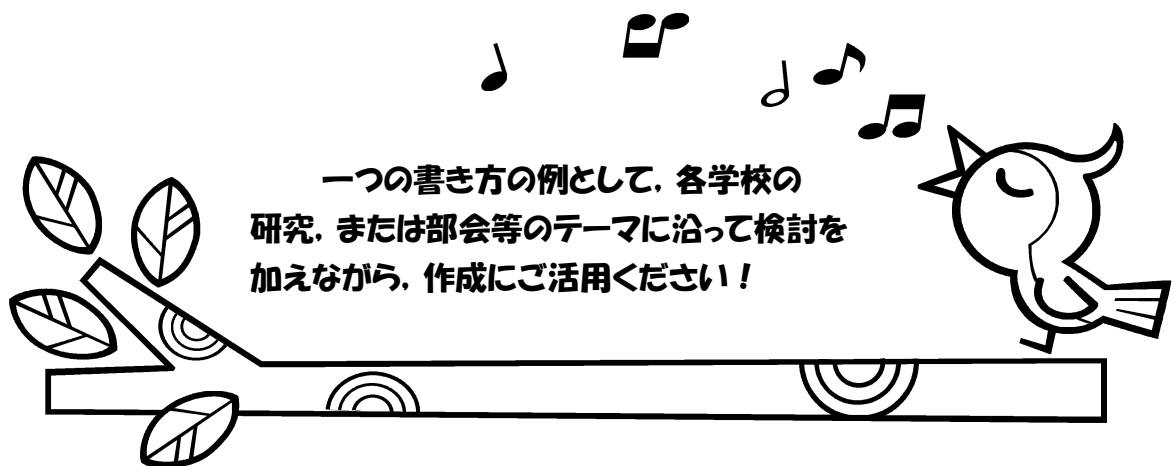
(A) と判断される具体的な状況	Aと判断するためのキーワード 子供の高まった様子をイメージし，2つくらいの状況例
(B) と判断される状況を実現するための指導 (手だて)	Bにするための教師の指導の手だて 具体的手立てとして2つくらいの手だて

○ (B) を実現している児童・生徒のうち，質的な高まりや深まりをもっていると判断される状況が「十分満足できる」(A) となります。(C) と判断される児童・

生徒には、(B)になるためには、どのような指導が必要であるかを具体的に示すことが重要。

○手だての例

- ・本人の傍らに行き、ともに活動することで、本人の活動を引き出すようにする。
- ・周りで演奏している友達の音に注意を向けるようにし、一緒に練習する。
- ・上達していることを認め、ほめ、励ます。
- ・活動できる場面を意図的に設定し、わかりやすく説明して練習を手伝うようにする。
- ・本人が何気なくやっている演奏の中から工夫につながるものを教師が見つけ出し全体の中で取り入れ、本人の意欲の喚起を促す。
- ・学習カードに何も書けない場合は、直接会話をしてその受け答えの中から、本人の気付いていることを明確にする。
- ・ことばのカードを活用させる。
- ・友だちの演奏中に私語をするなど、演奏者に迷惑をかけるような行為については目で注意を促したり、傍らに行って自分の行動に気付くようにしたりする。
- ・友だちの演奏を聴いて、よい面を発見できない場合は、自分の演奏と比べながら友だちのよさを見つけるようにアドバイスをする。



一つの書き方の例として、各学校の研究、または部会等のテーマに沿って検討を加えながら、作成にご活用ください！